

主日礼拝

2023年7月9日（日）

題 「生きて行きなさい」

テキスト：使徒言行録3章1～10節

皆さま、おはようございます。

今日の聖書の個所には、ペンテコステの出来事の後に、イエスの弟子のペトロが行った奇跡の出来事が記されています。

生まれつき足の不自由な人をペトロが癒したことが記されています。

この奇跡の中にこめられた、神さまの愛と力、イエス・キリストの思いをわたしたちは、今朝神さまの憐み恵みとして受け取り、汲み取り、これから先の人生に生かしていければと願います。

「◆ペトロ、足の不自由な男をいやす。」とあります。

神の霊が降るペンテコステの出来事は、エルサレムの町で、ユダヤ教の体制がこの地を支配している中で起こったことでした。人間として見れば、ナザレの村で育ったイエスも、イエスの弟子であるペトロを始め12人の弟子たち皆、ユダヤ人であり、宗教的にはユダヤ教徒でした。

1:ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。

イエスの弟子たちもユダヤ教の神殿での礼拝のしきたりを守っていたようです。エルサレムでの神殿礼拝は、朝の犠牲捧献の時と、夕暮れの犠牲捧献の時の2回あり、「午後三時」は、「第9の時刻」であり、夕刻の捧献の時間にあたるようです。

ユダヤ教には律法という、いわば強制的な宗教的ルールがあり、民衆は指導者たちに教えられ、ユダヤ教の掟を守っていたのです。守らなければならなかったのです。

神殿礼拝にも様々なルールがあったようで、ルールを犯すと罰せられるのです。神殿の内側のエリアに入れるのは成人の男性だけでした。女性は入れないのです。また異邦人・外国人は、女性たちが入ることのできる場所にも入れなかったのです。またユダヤ人でも障害を負った人々は、女性たちが入れる庭にも入ることは許されなかったようです。今日では考えられないようなことが、制度の中で行われていたのです。

そこで今日の出来事が起こったのです。この出来事は当時のユダヤ教のルールを覆すような当時としては大変な出来事であったのです。新しい時代の始まりのようにも思える出来事でした。

「2:すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。」この生まれながら足の不自由な人は、神殿の内部に入ることは許されず、美しの門のそばに置かれたのです。この美しの門は神殿の東側にあり、異邦人の庭から婦人の庭に入る門でした。金とコリント銅で装飾され、精緻を極めていたので美しの門と呼ばれていたようです。生まれながら足の不自由な男の人は、礼拝に来た人のお情けにすぎるかのような振る舞い方をさせられていたのです。約2000年前のユダヤ社会では、当然のことのよう、むしろ当然のように見なされて行われていたのだと思います。今では国や地域によって価値観は大きく異なるということを気付かされます。

さて、

3:彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。いつも行っているように礼拝を捧げるために来た人々に施しを乞うたのです。あたかも、施しを乞うことが、生まれながら足の不自由の人の仕事でもあるかのようにです。この後の、弟子のペトロとヨハネの、この生まれながら足の不自由の人関わり方に、神の介入があり、神さまからの光が差し込んで来ているように思います。また主イエス・キリストの意思が強く表れているかのように思えるのです。

4:ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。

「彼をじっと見て、」。わたしはこの「じっと見て」という言葉に心を動かされます。新しいことが始まる予感です。ペトロとヨハネは、門のそばに置かれている生まれながら足の不自由な男の人に真剣に向かい合っているのです。彼をじっと見て、彼に向かって言葉を出します。

ペトロとヨハネは、この人に「わたしたちを見なさい」と言います。ここから新しい事が起こって行ったのです。

「5:その男が、何かもらえると思って二人を見つめていると、」この男としては、自分に言葉をかけて来たからには、何がもらえるだろうと思ったかもしれませんが。

ペトロの語ったことばは、座りこんでいた人が聞いたことばは、彼の人生を今後作りかえて行く生ける言葉となったのです。

ペトロは言いました。6節「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と。

ペトロは、自分の全存在をかけて、目の前の人に語りかけているのです。

「ナザレの人イエス・キリストの名」とあります。「名」とは、力を表すと言えます。つまり「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」とは、イエス・キリストの力で、力によってこれから先は生きて行きなさい、ということです。「立ち上がって生きて行きなさい。」と。

この時、ペトロの語った言葉と共に、十字架で死に、よみがえられたイエス・キリストの愛と神の力が、この人に注がれ加えられ、立ち上がらせて行っただけです。神の憐みの中で聖書の言葉には、主イエス・キリストにあって人を作り変えて行く力があるのです。わたしも、そのような体験をしたことがあります。

私ごとですが、洲本教会に来させてもらう前、人間としても牧師としても家族を含めて、生死をさまようような、どん底を経験するようなことがありました。身体も心も衰弱して行く中、恐れと怯えに支配され、眠れない夜の暗闇の中で聞いたことば、

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」という言葉でした。愛なる神さまがわたしに与えてくださった言葉と信じています。このことばを聞いて、現実的に立ち上がることができたのです。歩くとは、生きて行くことです。イエス・キリストの名、力にすがって生きて行けるのです。「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」との言葉には、場所を超え、時代を超えて、主イエス・キリストにあって実現して行く、起こっていく出来事が約束されているのです。

この言葉には、神を信じ、頼り、すがる者たちには、今でも苦難の中にある人々を生かす力があり、聞いた人たちを用いて行かれるのです。正真正銘の神の言葉だと思います。ペトロは言葉に続いて愛の働き、手を添えてその人を助けたのです。憐み深い神がペトロを用いられたのです。

7:そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、

8:躍り上がって立ち、歩きだした。

言葉と愛が人を生かすのです。

そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入ってしまったのです。この人は、神を賛美する者へとつくり変えられたのです。そしてイエスにすがって生きて行くのです。

9:民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。

10:彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座って施しを乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。

一人の人が、変えられて行くことは、その人によってまわりの人たちも変えられて行くのです。

神さまは、過去も、現在も今日もこれからも、わたしたちに、どんな中にあっても主イエス・キリストにより頼んで生きて行きなさい、と語りかけてくださるのです。その道にこそ、真の平安と喜びがあり、感謝に溢れる人生があるのだと。

今日ここに集められた私たちは、共に居てくださる愛なる神、主イエス・キリスト、聖霊を信頼してすがって生きて行きたいと願います。